

滋賀県の地震

令和 6 年(2024 年)5 月

目 次

1 滋賀県の地震活動

(1)震央分布図	-----	1
(2)概況	-----	1
(3)断面図	-----	2
(4)滋賀県で震度1以上を観測した地震の表	-----	3
(5)滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布図	-----	3

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動

(1)震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図	-----	4
(2)概況	-----	4

3 地震一口メモ

南海トラフ地震関連解説情報について		
ー最近の南海トラフ周辺の地殻活動ー	-----	5

「滋賀県の地震」は彦根地方気象台における地震業務の一環として、県下の皆様に県内の地震活動状況をお知らせするとともに、防災知識の普及に努め、皆様のお役に立てることを目的とし、毎月刊行しています。

「滋賀県の地震」は上記目次で構成し、適宜地震活動把握のための解説資料や用語解説等を掲載します。

本資料に関する問い合わせは「彦根地方気象台（電話 0749-22-6142）」にお願いします。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

滋賀県内の震度情報発表地点は彦根地方気象台ホームページに掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/hikone/seismo/seismo.html>

本資料の震源要素及び震度データは、後日再調査の上修正されることがあります。

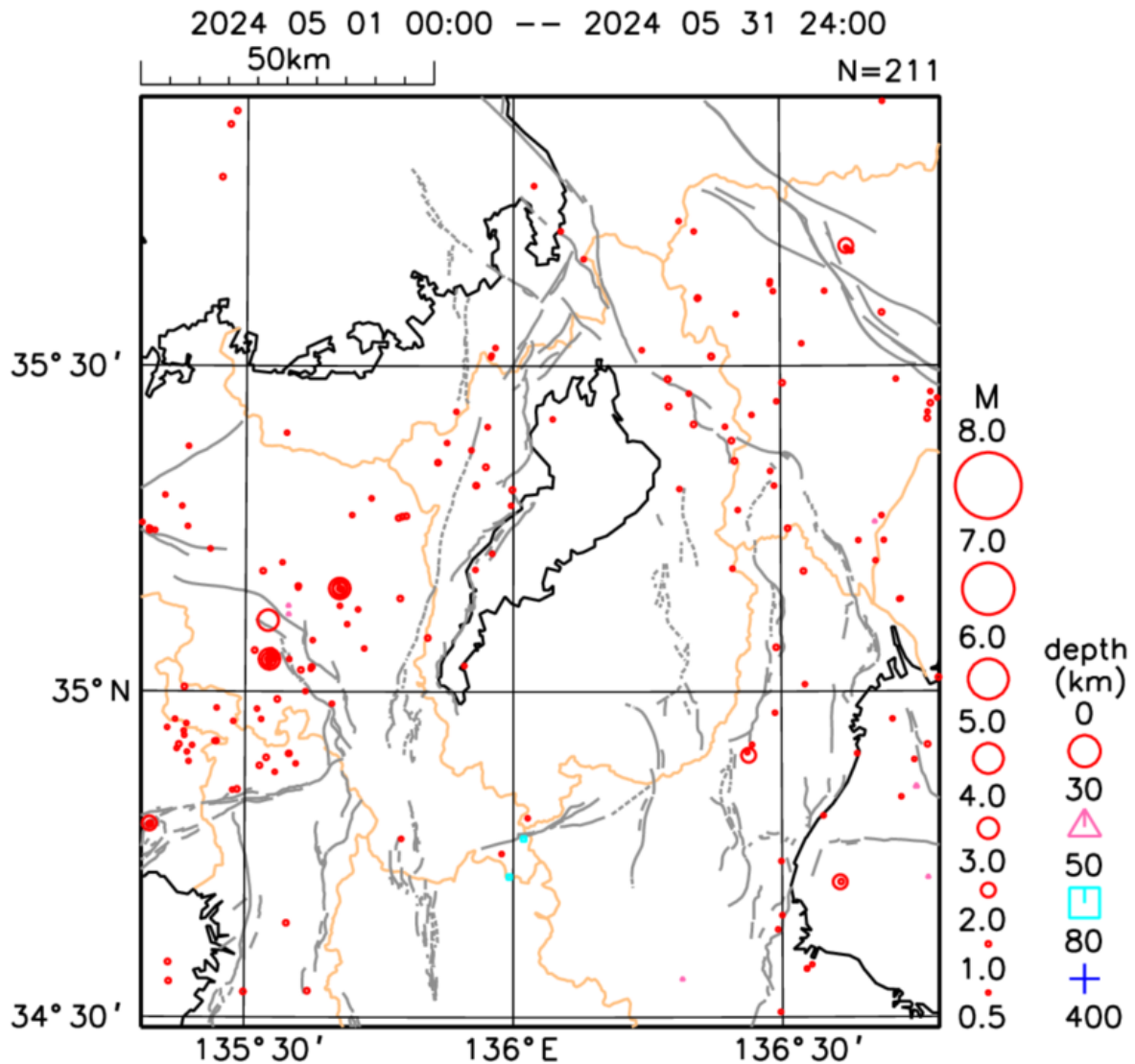
全国の地震火山活動概況、震源要素、震度データは気象庁ホームページに掲載しています。以下のアドレス「地震・津波・火山」からお知りになりたい項目をクリックしてください。

<https://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html>

彦根地方気象台

1 滋賀県の地震活動(令和 6 年 5 月)

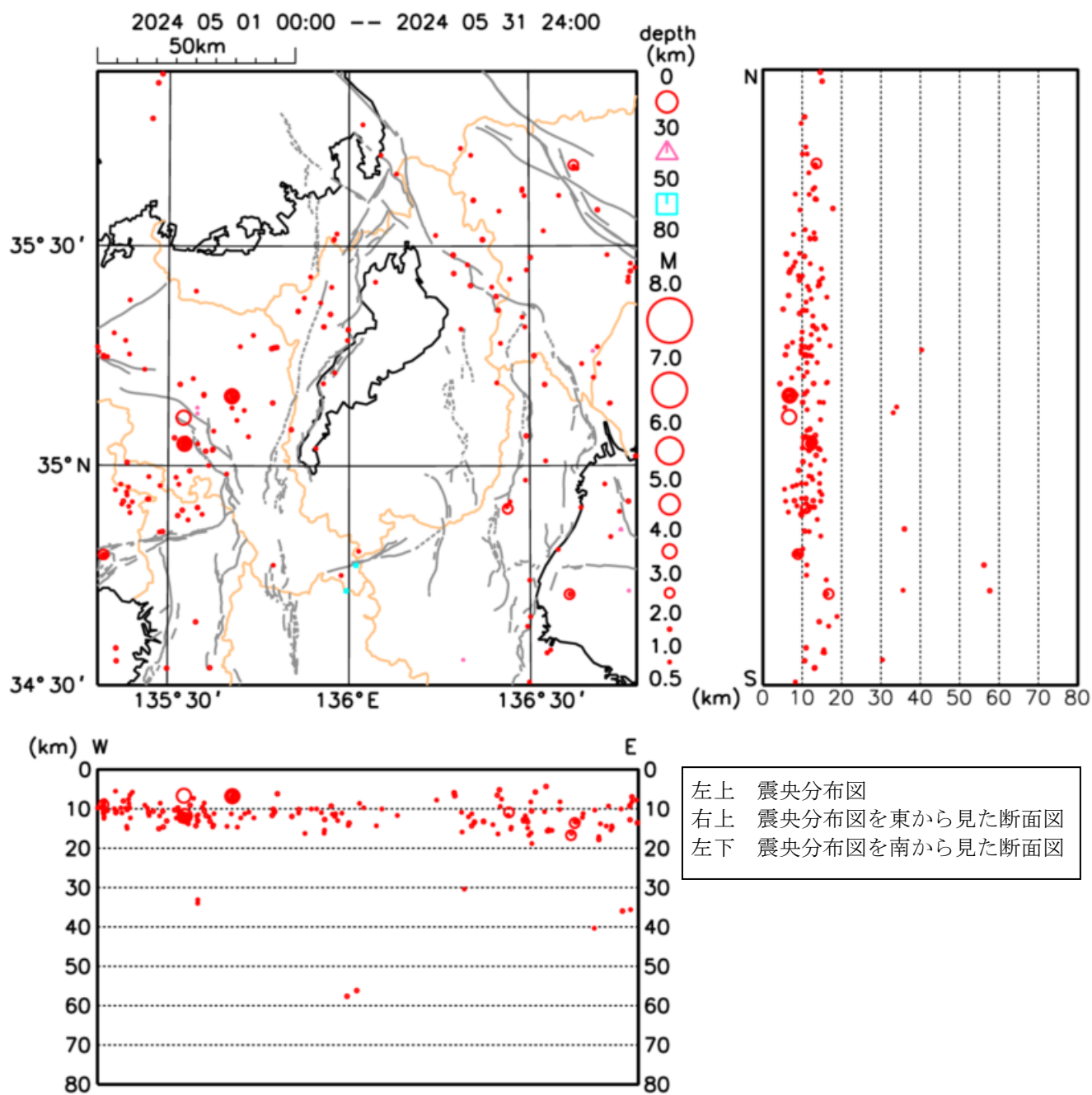
(1) 震央分布図



(2) 概況

5月に震央分布図の範囲内におけるM2.0以上の地震は10回(前月7回)でした。滋賀県内で震度1以上の揺れを観測した地震はありませんでした(前月1回)。

(3) 断面図(深さ 80km までの地震)



【解説】

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は主として沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

(4) 滋賀県で震度 1 以上を観測した地震の表

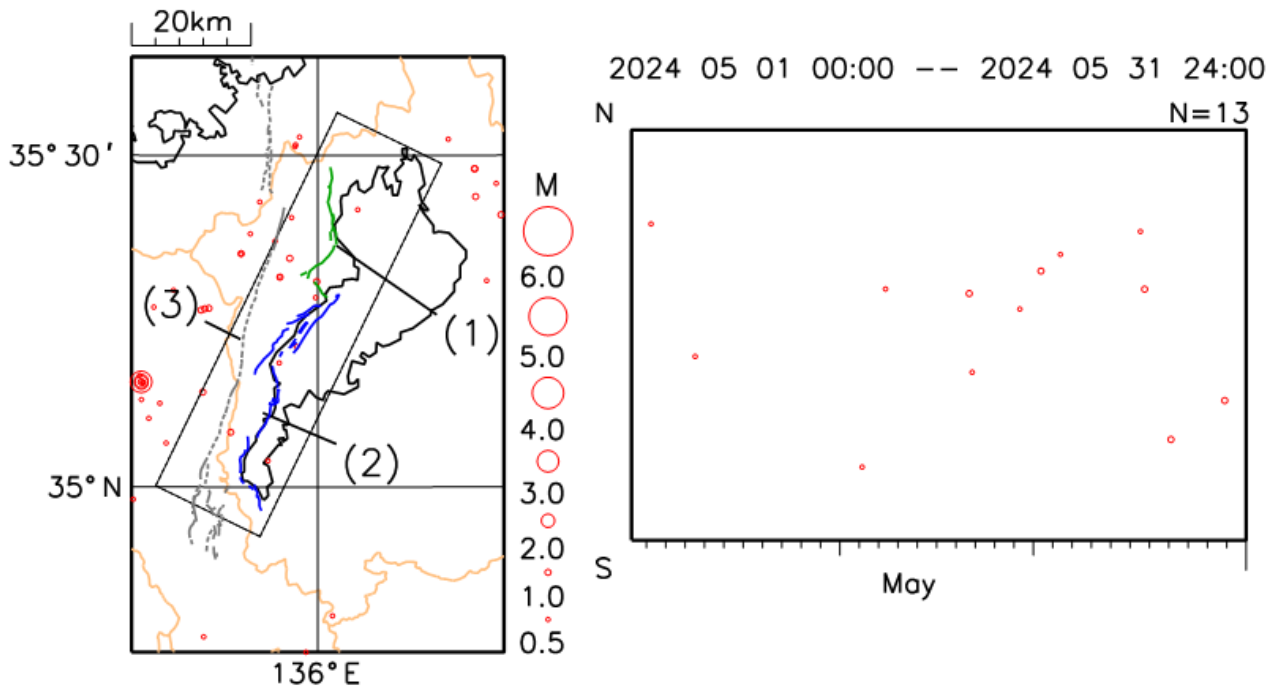
5 月に滋賀県内で震度 1 以上の揺れを観測した地震はありませんでした。

(5) 滋賀県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布

5 月に滋賀県内で震度 1 以上の揺れを観測した地震はありませんでした。

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動(令和 6 年 5 月)

(1) 震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図(深さ 30km までの地震)



(上) 震央分布図

深さ 30km 以浅の地震を表示。断層帯に沿った矩形領域内の地震の活動経過を右に表示。

図中の太線は、断層帯の概略位置。線種は活断層の存在の確実度(実線部>破線部)を表しています。

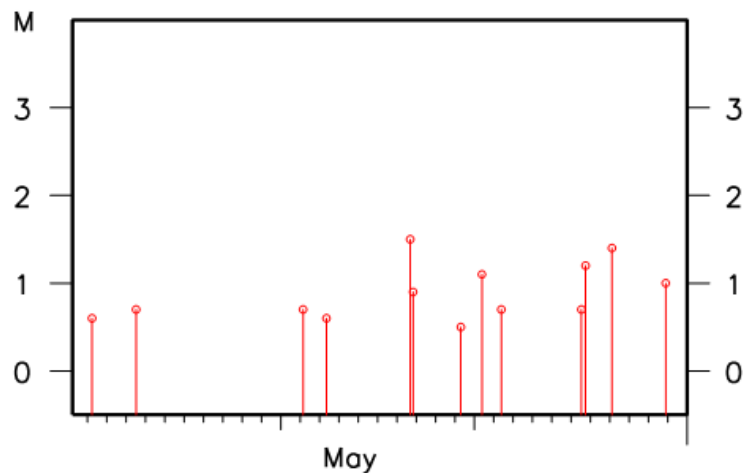
- (1) 琵琶湖西岸断層帯北部
- (2) 琵琶湖西岸断層帯南部
- (3) 三方・花折断層帯

(右上) 時空間分布図

震央分布図の矩形領域内の地震を南北の軸(縦軸)に投影し、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

(右下) 地震活動経過図(規模別)

震央分布図の矩形領域内の地震について、縦軸にマグニチュード、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。



琵琶湖西岸断層帯について

琵琶湖西岸断層帯は、滋賀県高島市(旧マキノ町)から大津市国分付近に至る断層帯です。全体として長さは約 59km で、北北東-南南西方向に延びており、断層の西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層です。

琵琶湖西岸断層帯は、断層帯北部と南部の 2 つの区間に分かれて活動すると推定されますが、全体が 1 つの区間として活動する可能性もあります。

断層帯北部では M7.1 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内にそのような地震が発生する確率は 1~3% と推定されます。

断層帯南部では M7.5 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内にそのような地震が発生する確率はほぼ 0% と推定されます。

(地震調査研究推進本部の長期評価(2009)による。ただし、地震発生確率の算定基準日は 2024 年 1 月 1 日。)

(2) 概況

5 月に震央分布図中の矩形領域内で観測された M2.0 以上の地震は 0 回(前月 0 回)で、同領域内の地震で震度 1 以上の揺れは観測されませんでした。

3 地震一口メモ

南海トラフ地震関連解説情報について －最近の南海トラフ周辺の地殻活動－

前回、4月17日の豊後水道の地震と南海トラフ地震臨時情報との関係を説明しましたが、今後30年以内に南海トラフでM8～9の地震が発生する確率は70～80%と切迫性が高い状態と指摘されています。このため気象庁では南海トラフ周辺の地震活動や地殻変動等の状況を定期的に評価するため、南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会を毎月開催し、次のような内容の調査結果を公開しています。

1. 地震の観測状況

南海トラフ巨大地震想定震源域やその周辺で発生した最大震度3以上を観測した地震もしくはM3.5以上の地震や深部低周波地震（微動）を掲載しています。5月9日に公開された前回の調査結果では、豊後水道の地震について活動状況などがより詳細に説明しています。深部低周波地震（微動）についてはある程度周期的に活動が見られるので、これまでの活動と比較して何か異常が見られないかなどを判断しています。

2. 地殻変動の観測状況

地震としての揺れを感じる事が無い短期的ゆっくりすべりや長期的ゆっくりすべりについてはひずみ計やGNSS（衛星測位システム）を用いて活動を監視した結果を書いています。ゆっくりすべりはプレート境界の固着状況の変化を示す現象と考えられることから、気象庁は、関係機関の協力を得ながら注意深く監視しています。

3. 活動の評価

観測状況を踏まえ、南海トラフ地震の想定震源域でプレート境界の固着状況に変化が見られるかどうかを調査した結果を書いています。



気象庁
Japan Meteorological Agency

報道発表

令和 6 年 5 月 9 日

地震火山部

南海トラフ地震関連解説情報について

－最近の南海トラフ周辺の地殻活動－

現在のところ、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時^(注)と比べて相対的に高まったと考えられる特段の変化は観測されていません。

(注) 南海トラフ沿いの大規模地震（M8からM9クラス）は、「平常時」においても今後30年以内に発生する確率が70から80%であり、昭和南海地震・昭和南海地震の発生から約80年が経過していることから切迫性の高い状態です。

1. 地震の観測状況
(顕著な地震活動に関する現象)

4月17日23時14分に豊後水道の深さ39kmを震源とするM6.6（モーメントマグニチュードMw6.3）の地震が発生しました。この地震は、発震機構が東西方向に張力軸を持つ正断層型で、フィリピン海プレート内部で発生しました。

(ゆっくりすべりに関係する現象)

プレート境界付近を震源とする深部低周波地震（微動）のうち、主なものは以下のとおりです。

(1) 四国中部：3月22日から4月4日

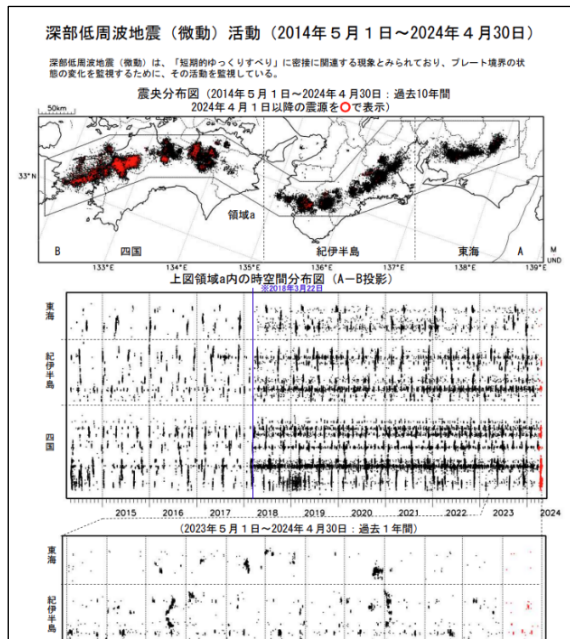
(2) 四国西部：4月8日から4月29日

2. 地殻変動の観測状況
(顕著な地震活動に関する現象)

4月17日の豊後水道の地震に伴い、GNSS観測でごくわずかな地殻変動を観測しました。

(ゆっくりすべりに関係する現象)

上記(1)、(2)の深部低周波地震（微動）とほぼ同期して、周辺に設置されている複数のひずみ計でわずかな地殻変動を観測しています。周辺の傾斜データでも、わずかな変化が見られています。



調査結果の例（一部抜粋）

気象庁HP 南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会

<https://www.jma.go.jp/jma/press/hantei.html>

気象庁HP 南海トラフ地震について

<https://www.data.jma.go.jp/egev/data/nteq/index.html>